



2009.3.31 発行






# めんたるねっと

YMSN 情報誌

(特定非営利活動法人)横浜メンタルサービスネットワーク

第 20 号

Vol.5 No.4

	トピックス	非正規雇用と“痛み”のシェアリング	1
	実践報告	港南区生活支援センター地域支援事業「家族 SST」	2
	研修報告	グループスーパービジョンを受けて	5
	就労の取り組み	パソコンをツールとした就労準備	7
		予定・報告	9

## 非正規雇用と“痛み”のシェアリング

### 貧困を食い止めるために何ができるのか

景気低迷が続いている中で、非正規雇用が増え、そしてワーキングプアは増大。

皆さんは「貧困スパイラル」という言葉をご存知だろうか？ 私はごく最近この言葉を本で知った（『正社員が没落する』堤 未果・湯浅 誠著 以下の引用もこの著作より）。

**職も住居もない人**が仕事を探す時「寮付、日払い可」という仕事を選ばざるを得なくなる。『寮付、日払い可』というのは低賃金・不安定就労の象徴のような労働形態である。しかしそれ以外は選べない。結果として雇用保険に加入しているかどうかなどは問えなくなる。これをこの本の筆者は「NOといえない労働者」と呼んでいる。少し引用が長くなるが『そして「NOといえない労働者」が増えれば、きちんとした労働条件が整っていない職場にも人が集まるようになる。安い労働者を使うところほど利益も高くなり労働者を大事にする企業は競争で生き残れなくなる。労働条件は全体として地盤沈下していく。悪貨が良貨を駆逐する形だ。結果として、さらに労働市場は壊れ、貧困が増大していく。この悪循環を、私は「貧困スパイラル」と呼ぶ』さらに、『貧困の増大は、労働市場が壊れた結果であると同時に、労働市場を壊す原因でもある』と筆者はいう。これはもう自分が正規雇用だから関係ないと言えたところの話ではない。

日本経済団体連合会と日本労働組合総連合会はこの状況に対応すべく動きだした。3月3日「雇用保険の手当てを受給できない離職者が職業訓練を受ける期間に支給する新給付などを盛り込んだ『雇用安定・創出に向けた共同提言』を発表」（福祉新聞 3/6 付け）し、舛添要一・厚生労働大臣に対してこの提言実現のための労使共同要請を行ったのである。

さて、最近私の職場で週2~3回の非常勤職員を1名募集したところ3~4日で10名の応募があった（うち3名は男性である）。うち一人の女性は夜20時までの勤務のため主婦が働くには「夫の理解が難しいのではないか？」という問いをよそに「大丈夫です、自分も働かなければ生活できません」という答えがすぐに返ってきた。関連の資格をもたないまでも「とれる予定」とか「とるつもり」と意欲も高い。他にも資格も経験もありという人もいる。福祉の職場は「人」である。信頼でき、対人関係にセンスもあり、知識もありと質のよい労働力が欲しい。非正規雇用といっても定着して働くには、正規雇用に近い労働条件が求められるし、研修の機会も保証していかなければならない。経費は嵩む。

まだ、企業の一部では労使交渉で正規雇用に対してのみの賃上げ闘争も行われているが、そんなことをしている場合なのだろうか？ むしろ正規雇用の労働時間を短縮しながら、雇用創出や非正規雇用が安心して働いていくための条件整備を早急に行う必要があるのではないだろうか？ 正規雇用で得られた現在の収入、その既得権を一部であっても手放すには痛みを伴う。が、貧困の増大により今後社会全体が失うものを考えれば、その痛みも皆でシェアしてでも貧困を食い止めなければならないと思う。その痛みをくぐり抜けた後には時間短縮等による生活の豊かさもみえてくるような気がするのだが。

（YMSN理事 森川充子）

## 実践報告

### SST の現場から

## 港南区生活支援センター地域生活事業

### ～「家族 SST セミナー」を実施して～

横浜市総合保健医療センター 片柳光昭

家族支援の必要性は、古くは 1960 年代のアメリカまでさかのぼることになるが、その必要性は周知の事実であるにもかかわらず、「どのように」「何を」「どんな形で」などといった疑問のもと、どうか工夫しながら実施している機関や、これらの疑問が解けぬまま家族支援が展開できないでいる機関も少なくないと思われる。

また、支援の内容だけでなく、枠組みとしても、実施に対する経済的なバックアップがないことで、家族支援をやるうにもやれない機関や、マンパワーの問題など、家族支援を実施することを阻む要因は、現在の精神保健福祉の支援機関において、思い出さずとも頭に浮かぶほど見当たってしまう。

このような現状においては、従来のように、当事者本人の通所先や利用先の支援機関が、それら当事者の家族に向かって支援展開するという枠組み自体が成り立ちにくくなっているような気がする。

2008 年度、横浜市が新たに開始した生活支援事業として、港南区生活支援センターは「家族 SST セミナー」がある。このセミナーは、横浜メンタルサービスネットワークと港南区生活支援センターの加藤敦子氏、麻生政志氏を始め他の職員の皆様と協力して一緒になって作り、セミナーの講師として筆者がかかわったものであるが、この取り組みは、これまでの家族支援の枠組みを

少なからず変化させる息吹を感じるのである。セッションの内容が家族を対象とした SST であったこともそうであるが、継続的かつ定期的を実施したこと、また参加の対象者として「統合失調症の方のご家族」というくくりのみで、対象が広いこと、さらに港南区の支援センターが主催する試みを「港南区内」で行う＝遠くにまで通う必要のない、身近な、そして使い勝手のいい地域の施設を用いて行えたことなどの要因が、それに当たる。

今後も、先に挙げた問題が早々と解決することはなかなか想像ができない。しかしながら、家族支援の必要性はこれまで通りに求められていくと思われる。では、家族支援をどのように行っていくことが求められているのか。今回の取り組みを振り返りながら、その可能性を探ってみたい。

#### 港南区生活支援センター生活支援事業「家族 SST セミナー」の概要

今回の取り組みは、08 年 9 月から開始された。開始するにあたっては、以下のような枠組みを設けた。

- ・ 開催回数及び頻度 1クール8セッション、隔週の土曜日の15時から17時。
- ・ セッションの構造 前半に、統合失調症を家族が理解する上で必要と考えられた情報や知識を伝達し、後半には、家族の対人技能や問題解決技能を高める働きかけとして、SST を

用いて練習する。

- ・ セミナーの目的 家族が、無理せず、ちょっと楽に生活できるようになるために、統合失調症を理解し、当事者だけでなく家族間のコミュニケーションをスムーズに行えるコツを覚えることとした。
- ・ セミナーの内容 講義については「病気について」「認知機能障害について」など、また SST については「うれしい気持ちを伝える」などの基礎的 4 つのスキルや、問題解決技能訓練など（表 1）

	講義	スキル
1	病気について、認知機能について	うれしい気持ちを伝える
2	機能障害とコミュニケーション	頼みごとをする
3	薬について	人の話に耳を傾ける
4	中途障害について	不愉快な気持ちを伝える
5	回復の過程について	問題解決技能訓練
6	社会資源について	人の話に耳を傾ける (実践編)
7	病状の悪化と予防について	相手を肯定する
8	これまでの復習	これまでの復習

このような枠組みをパンフレットにまとめ、区内にある精神科クリニックや社会福祉施設などの各関係機関に送付した。

取り組んで気づいた「支援の届きづらさ」と、それを変化させる「身近さ」

全 8 回のセッションを終えて、まず感じたのは、我々のような支援従事者、あるいは支援機関と接点のないご家族が多いことだった。各回の平均参加者数は 10 ~ 15 名程度であったが、印象的だったのは「本人が医療機関との関わりを切ってしまった。もう出かけるところがないし、私もどうしたらいいか」というようなご家族が参加されていた。なるほど、我々支援従事者は、本人や家族からのアクセスによって相手の存在を知ることになることになる訳で、それがなければ我々はそ

のような存在にすら気付かないでいてしまう。また、従来のような通所先、利用先の機関が行う家族支援という枠組みでは、通所や利用がなければ、なかなか情報もはいつてこないであろうし、仮に情報が入ってきても、「本人が行けていないのに、親がいくのもどうかしら」という後ろめたさも生まれるだろう。今回の取り組みを通じて、これまでの家族支援の形では、その支援が届かないでいるご家族がいることを知ることになった。幸いにして、今回の家族 SST セミナーにお出でいただいたご家族は、支援機関との繋がりが一つできたのであるが、このように、なんらかの支援を必要としながらも、支援が届いていないご家族に対しての取り組みが、今後は非常に重要になると感じた。そのための工夫として、今回のような「身近な機関で行われ、オープンな形式」での家族支援の形は大変有効であると感じた。

#### 定期的かつ継続的に実施する意味

筆者はこれまでも様々な場において、依頼を受けて家族 SST を行ってきた。これまで行ってきた家族 SST と今回の最も異なるのは、定期的かつ継続的に実施した点である。具体的には、2 週間に 1 回の頻度で、計 8 回を 1 クールとして実施した。もちろん 1 回限りでの参加も可能であったが、約半数の家族が概ね 8 回参加されていた。この構造のもと実施することで、参加家族に変化が見られた。その変化とは、ご家族自身が「生活の中に生まれたちょっとした変化を感じた」という感想が、回が進むに連れて多く聞かれるようになったことである。セッションで取り組んだスキルを生活場面で活用することで、ゆっくりではあるが、生活の中に般化されていったこと、その延長上にコミュニケーションの変化が起こったこと、そしてそれを報告できる場があること、これらは、このセミナーが定期的かつ継続的に実施できたが故

の成果であると考えられる。

### 参加家族の苦手意識への工夫

また、家族 SST では「SST はロールプレイがいやなのよ」という声をご家族からよく聞かれる。そこで、このセミナーでは、ステップバイステップ方式によって実施した。ステップバイステップ方式では、参加者全員が同じスキルの練習を行い、自分の生活の中で活用できる場面で、練習してスキルを獲得していく。この方法によって、参加家族にとっては、参加家族全員が同じスキルと一緒に練習をするという点で、参加家族の持つロールプレイに対する苦手意識が軽減されたように感じた。実際のセミナーの場面においても、参加家族が「こんなの無理よね～」や「ここだからできるのよ」といった発言をしながら、それでもご家族同士笑いながら、活気のあるロールプレイの時間が毎回毎回持たれていた。そういった、無理の

ない、楽しみながらのロールプレイの時間があつたことで、日常生活場面に戻った時も、「ちょっと使ってみようかな」と思い実際に活用してみる結果につながったのではないかと考えられる。

このように定期的かつ継続的に実施し、かつロールプレイへの苦手意識を軽減しながら進めていくことが、家族 SST において重要であると感じた。

### これからの家族支援

家族 SST は、参加された家族自身が、参加してみてもよかったという感想にとどまらず、生活がちよつとずつ変化していったという実感も伴ってもらえることが重要であると考えます。今回の取り組みを踏まえ、平成 21 年度も同様のセミナーを実施する予定である。セミナーから生活の変化につながる家族 SST セミナーを目指していきたい。

( Y M S N )

2009 年度 地域支援事業

## 統合失調症の方の家族 SST セミナー

この講座で病気への理解を深めつつ、コミュニケーションのコツを、演習をしながら学びましょう。精神障害を抱える方のご家族はもちろん、どなたでもご参加頂けます。1 回だけでも構いませんので、興味を持たれたプログラムにご参加下さい。

< 日程とプログラム内容 >

	土曜日		講義	スキル
1	4 / 2 5	基礎編	病気の概要を知りましょう	人のいいところを肯定する
2	5 / 9		脳の機能について知りましょう	うれしい気持ちを伝える
3	5 / 2 3		発症するという体験について知りましょう	頼みごとをする
4	6 / 6		薬について知りましょう	人の話に耳を傾ける
5	6 / 2 0	実践編	回復の過程を知りましょう	人の話に耳を傾ける (自分の意見を言いたい時)
6	7 / 4		病状の悪化を防ぐコツを知りましょう	人の話に耳を傾ける (意見が受け入れられない時)
7	7 / 1 8		本人の回復力について知りましょう	問題解決技能訓練
8	8 / 1		これまでの復習	これまでの復習

毎回完結型セッションにて、前半は病気に関する講義、後半はグループで演習をしながら、コミュニケーションのコツを得ていきます。

事前の予約は必要ありません。当日直接会場にお越し下さい

< 時間 > 15 時 30 分 ~ 17 時 30 分

< 場所 > 港南台地区センター 中会議室

( JR 根岸線港南台駅より徒歩 10 分・市営バス港南台中央徒歩 3 分 )

< 講師 > 片柳光昭先生 ( SST 普及協会認定講師・横浜メンタルサービスネットワーク会員 )

問い合わせ：横浜市港南区生活支援センター TEL：045-842-6300



## 研修の報告

# グループスーパービジョンを受けて ～ 実務経験5年以上の支援者を対象にしたグループ ～

東邦大学医療センター大森病院  
作業療法士 羽田舞子

日々の仕事をしている中で、解決できていない事や疑問が山積していた。グループスーパービジョンを受ける機会を頂いたのはそんな時だった。学ぶ事の出来る喜びと同時に、忙しさにかまけておろそかにしていた様々が、白日の下に晒されてしまうのではないかという恐怖とを半々に抱いての初日だった。

グループスーパービジョンは助川征雄先生をスーパーバイザーとして、経験5年目以上の支援者を対象として今回開催して頂いた。緊張の初回以降、各回で自分の印象に残っているキーワードと参加しての感想をごく簡単ではあるが記させて頂く。

【1回目】「信頼と承認」「共感と疲れ」

テーマ：スーパービジョンとは何か

スーパーバイザーは、語りの中での自己点検をサポートし、承認し、「かかわり」について気付きの作業を手伝う、とのことのお話。その中で相手を「愛する」「思いに沿う」との言葉を使っておられたのが非常に印象的だった。

相手を信頼しその力を承認する関わりは、クライアントの方と関わりを持つ時、他の同僚と関わる時、学生を受け持つ時、など様々な関係に応用する事が出来る。また、その講義の中で、参加している我々も信頼され、承認されているという思いに駆られ、後半は感情豊かな内容になっていった。

テーマ：イギリスの地域ベースの精神障がい者支援

イギリスモデルの紹介。完成度の高いモデルのように感じたが、同時にそれが発生した背景には多くの苦難や不満の流れがあつての事である事も知った。

テーマ：共感と疲れ

日々の臨床の中で、相手に共感し向き合うからこそ疲れを感じてしまう事がある、とのテーマ。クライアントへの気持、共感している思いとそれが上手く行かない時の疲れ、など通常話す機会の少ない事ではあるが、それぞれの思いが話された。

【2回目】支援者とクライアントの関係は、共に道を歩き、いつの間にか居なくなる

テーマ：共感と疲れ

前回のテーマを踏まえての話し合い。共感出来ないからの疲労、クライアントへの思い入れ、性差、クライアント家族との関係、疾患、非難を受けた時、クライアントが自分から離れていく寂しさ、など様々な角度から共感と疲れに関しての話となる。

疲れたと口に出す事の罪悪感から、疲れる程相手と深く関わっている、ということへリフレーミングされたような時間だった。



【3回目】ねぎらわれる

テーマ：症例検討

症例に対し、院内での連携、支援者に抵抗感を持つ家族との連携について、他職種や母親に対しそれぞれを尊重する関わりの大切さ、組織を活かす行動が確認された。また、クライアントに対しての支援者の感情や支援終了に向けての気持ちも露わになる。

症例を出させて頂いた私には思いもよらない質問や意見を、参加者の方々から沢山頂いた。自分の問題を共に考えて貰った体験は、私にとってねぎらわれた時間となった。

【4回目】自分の体験を一般化する

テーマ：それぞれの現状

地域で支援する難しさ、脆弱な制度の現状、職員のメンタルヘルスなど、今、まさに日々仕事しながらぶち当たる現状の問題がテーマとなる。

その中から、「理論的に説明をつけなくてはいけないもの」と「説明はつかない思いや体験、感情」のバランスについての話となる。自分の経験を使っている支援、思いは人をつなぐものである事、語りの重要性、などの豊かな思いは自分の体験の中から生まれ、それを一般化していく大切さが話された合理的なものと豊かな思いのどちらも大切であることを確認した非常に印象深いセッションであった。

【5回目】強みをどう引き出すか、と発想の転換

テーマ：ストレングスモデルについて

ストレングスモデルについてその説明と、モデルの生まれてきた背景についても解説して頂く。生々しい現実があり、そこからどうしていくか、必死な中から生まれてきたモデルである事を知った。個人の、環境の能力を最大限に活かす視点と発想、柔軟性は非常に未来志向であり、これが

らの臨床への大切なお土産となった。

今、5回を振り返って、あまりに豊かで深い内容のほんの一端もここに記す事が出来ていない気持ちに駆られる。全体を通して非常に温かく、参加者自信がエンパワメントされるような空間であったと思ひ返す。

今回は経験5年目以上の支援者が対象であった。自分の成長を実感できないまま日々の疑問が積みもり、仕事の責任ばかりが重くなる中で焦りを感じていたが、他の参加者の方の意見や話を聞きながら、本当に多くの事を教えてもらった。同時に、自分が井の中の蛙である事を改めて感じた。井戸の外に大海が広がっている事を知った今、海の中を泳ぐことの出来る力をつけて行きたいと思う。

今回のスーパービジョンの雰囲気を作り、我々の気付きを導きながら、支持して頂いた助川征雄先生に心から感謝の意をお伝えいたします。また、貴重な機会を提供して下さい、横浜メンタルサービスネットワークの方々にも心より御礼申し上げます。



## 就労の取り組み

### 「パソコン」をツールとした就労準備 ～ 事務職種への就職を目指して... ～

#### はじめに

横浜メンタルサービスネットワーク（以下 YMSN）では、2004年10月より、神奈川県障害者能力開発校の委託を受け、同校協力のもと、精神障がい者への短期職業訓練のプログラムを、以前より実績のある「就労準備プログラム」のパッケージを基にして、開発・提案し、定着させてきました。その結果、神奈川県内では多くの企業・福祉団体が精神障がい者を対象とした職業訓練「トライ」を実施し、精神障がい者の就労へ成果を上げる結果につながりました。

YMSN は、04年10月から07年1月まで5クール実施し（実践報告は、情報誌3号、5号で紹介）、それ以後は、(npo)かながわ精神障害者就労支援事業所の会の実施をサポートする形で関わりを継続してきています。

#### トライでの実績

YMSNでは、当初から一貫した就労支援プログラムを柱にし、準備（就労準備プログラム）

就職 職場適応（ジョブコーチ） 定着（就職者SST）を継続して実施することにより、49人の修了者のうち、32人が1年以上就労継続し、定着率は64%になっています（詳細は下記表）。

就労年数	4年	3年	2年	1年	合計	離職
修了者	10	25	13		48	
定着年数	5	14	9	3	31	4

#### 新しい取り組み「パソコン科」

06年の「障がい者の雇用促進に関する法律」の改正により、精神障がい者（＝精神障がい者福祉保健手帳保持者）が、雇用率（300人以上の正社員を有する企業に対して1.8%の比率で障がい者を雇用する企業義務）枠に認められることになったこと。また雇用義務の規制強化により、従来の「障がい者枠」である身体障がい者、知的障がい者の方の未就労率が下がってきたことから、事務職での精神障がい者の就職枠が高くなってきたことが、この取り組みをするきっかけになりました。

#### 就労準備科で「パソコン教室」ではない

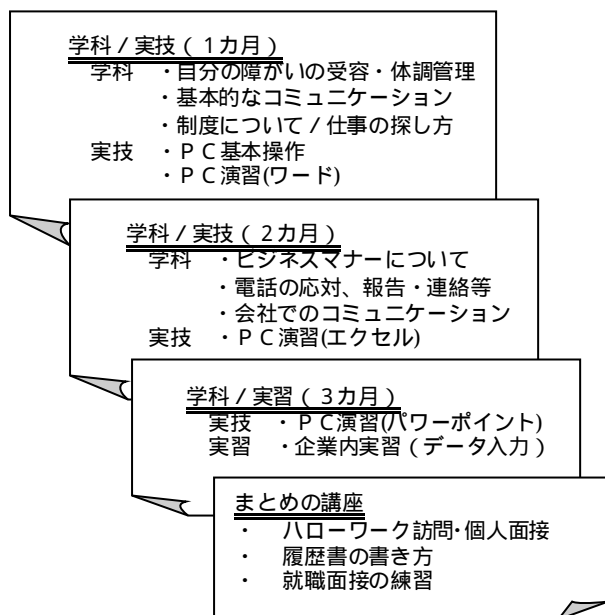
目的は「就職」、そのツールが「パソコン」です。プログラムも従来の「就労準備科」の講座に加え、ビジネスマナーや電話対応の実践も加えたプログラムに仕立てました。そのうえで、パソコンのスキル獲得を狙っているので、かなり凝縮したプログラムになりました。

有限会社フォーレストが神奈川県と事業契約をし、ネットワーク設備のある事務所と受講生1人1台のパソコンと周辺設備を提供してくれました。YMSNは事業運営を100%請け負う形で始めました。

1年目の07年度は、作り上げる途中ということで、企業実習が予定通りにいかないこともありましたが、およその目標は達成できました。

以下、プログラムを紹介します。





- 1日5時間、9時30分～15時30分、  
月12日 / 3カ月間 週3～4日
- 午前(9:30~11:30) / ビジネスマナー
- 午後(12:30~15:30) / PC演習

1カ月目は就労へ向けて現在の自分の体調の把握をし、体調管理や生活リズムを作っていきます。パソコン実技ではウインドウズの基礎とメール、ワードを学習し、ワードでは簡単なチラシや案内を作成できることを目的にします。

2カ月目はビジネスマナーを学び、企業実習として企業で実際に働きます。パソコン実技は、エクセルを学び、セルの意味、簡単な数式に触れます。

3カ月目は仕上げの講座として位置づけ、企業での作業を想定した実務内容で毎日のプログラムが組み立てられます。実際に電話対応の体験もします。

最後に、パワーポイントを覚えながら、この3カ月で自分自身が学んだこと、整理できたことを振り返り、まとめる作業をします。この作業では、チームで作品を作っていく課題も与えられます。相談してまとめていく作業は、人によってはかなり負荷のかかる作業になります。

そして、パワーポイントを使って完成した作品を基に発表会を開き、企業実習でお世話にな

った事業所の方、推薦してくれた支援者の方をお招きします。実習先企業の方からは、「見違えるように自信がでていた」「予想通りに3カ月を有効に使ったようだ」などと感想をいただきました。

修了時には、次の目標設定を具体化します。職種、就労時間、通勤時間を明確にし、ハローワークへ出向き、トライ終了の報告と職探しの支援をハローワーク担当者へお願いします。

下記の表は07年、08年度の実績です。修了してすぐに就職できるわけではありませんが、1年以内に70%の方が就職していることがわかります。(08年度の方は就職活動中)

就労年数	07年度	08年度	合計	離職
修了者	17	16	33	
就職者	12	3	15	0
	70%	18%	45%	

#### まとめ

「就職したい」声に応える3カ月は、グループ全体の目標が一致しているので、より個人の力を引き出しているように感じます。このことは、以前から取り組んでいる「就労準備科」と変わりませんでした。しいて効果を挙げるとすれば、「パソコン」をツールにすることが今の企業求人者に即していることです(求人数が多い)。事務実務を体験して、自信を持って就労に臨むのと、そうでないのでは差があるのだと思います。また、認知機能障がいの方への支援方法として、目標が明確であることが効果を上げる要因になったのだと感じました。

企業の求人ニーズに応えるパソコン科は、09年も7月から3クール取り組みます。多くの方が参加されることを願っています。

また来年1月からは、新しい職種開拓を考え、新たにプログラミング科を考えています。協力企業とともに、組み込みプログラムのテスト業務を職種とした職業訓練に取り組む予定です。

(YMSN 鈴木弘美)

## 研修会のお知らせ

**精神保健福祉研修会** 参加費 1回 500円 (年間 4,000円)  
 日時： 毎月第2金曜日(12月休会 全11回) pm. 7:00~8:30  
 場所： ひまわりの郷 OR ウィリング横浜 横浜市港南区 上大岡オフィスタワー  
 内容： ホームページをご覧ください <http://forest-1.com/ymsn/>

**SST(生活技能訓練)研修会** 参加費 1回 1,000円 (年間 7,000円)  
 日時： 毎月第3木曜日(8月・12月休会 全10回) pm. 7:00~9:00  
 場所： 横浜市総合保健医療センター 講堂 (5月まではかながわ労働プラザ)  
 全体会： 各施設・現場でのSST実践報告・ケースレポート(参加者の持ち回り)  
 分科会： A.完全初心者コース B.リーダー体験コース C.ステップ・バイ・ステップコース D.実践コース(4月、5月「家族教室のためのSST」)

## 当事者のためのグループ活動のお知らせ

詳細は各支援センターへお尋ねください

就労講座	港南区生活支援センター	毎月第3水曜日(原則) pm. 2:00~3:00
就労フォローアップミーティング	港南区生活支援センター	毎月第2土曜日 pm. 2:30~3:30
	神奈川区生活支援センター	毎月第4日曜日 pm. 2:00~3:00
	YMSN	OB会の開催 就労者のSST実施
SST	港南区生活支援センター	支援センターニュースでお知らせ

## 電話相談

第2・第4木曜日(2回/月) 10:00~15:30  
 相談専用電話 045-841-8294

## 会員について

会員を募集します。YMSNの活動を応援していただける方は会員になってください。(会費 正会員年間5,000円)  
 会員は、研修会(上記案内)への年間参加費が割引になります。  
 精神保健福祉研修会(1,000円) SST研修会(3,500円)  
 会員へは、情報誌が無料配付されます。

正会員5,000円(個人) 賛助会員12,000円(団体)  
 (正会員・賛助会員にはYMSN情報誌を無料配付)

振込先：郵便振替口座 00250-6-71607  
 横浜メンタルサービスネットワーク

季刊 YMSN情報誌 Vol.5 No.4

めんたるねっと2008第20号 2009年3月31日発行  
 間購読料1,000円(年4回発行) 1冊頒価300円

発行：NPO法人 横浜メンタルサービスネットワーク

理事長 武井昭代 編集代表 森川充子

〒233-0001 横浜市港南区上大岡東2-42-4

TEL 045-841-2179

FAX 045-841-2189

<http://forest-1.com/ymsn/>

e-mail: [ymsn@forest-1.com](mailto:ymsn@forest-1.com)

印刷：横浜市総合保健医療財団

精神障がい者授産施設 港風舎印刷